

# 町長日誌 No.179



町長日誌の第179号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

9月15日(土) PM 1:00

暑いぐらいの秋晴れ日よりのなか、私の地元である秋里八幡神社のお祭りが10時半から行われました。神事のあと餅撒き、そして、バーベキュー大会と楽しい催しが行われました。当然のことに私も出席していたのですが、STVラジオから9月6日の地震・停電の被害などについて取材があるということで、途中で抜けて役場に來ました。先ほど取材が終了しましたのでこの日誌を書いています。地震や停電により開催が心配された興部神社をはじめとする町内各神社の秋祭りも、12・13日は沙留神社、15・16日が宇津神社、住吉神社、富丘神社で行われます。最後に豊野神社祭りが16・17日に行われ町内すべての秋祭りが終わり季節は秋本番となります。

9月6日(木)

胆振東部地域を震源とする地震が発生しました。内陸部を震源とする地震としては最大の震度7ということですが、私は体験したことのない震度ですからどのような揺れや被害なのか正直想像もつきませんでした。後日、テレビで厚真町の山々の表層崩落を見たときに「こんなことが起きるのか？」と本当に驚きました。町は早朝からそれぞれの担当課を通じて停電対策や情報収集そして関係機関や団体などとの連絡などを進めました。停電により最も影響を受けるのは時間帯からして酪農家の搾乳作業です。これまでも平成16年9月の爆弾低気圧による風被害で3日間にわたり停電したことがありましたが、この時でも全町停電ということはありませんでした。幸いにも過去の体験から現在20戸以上の酪農家で自家発電機を持っていましたが、残りの農家は発電機を持っていませんでしたので、農協が手配をして用意をしたのですが大型の発電機が借られないことから役場に配備してある発電機1台を使ってもらうことにしました。しかし、今回は全道すべてが停電ですから、乳業工場も停電により生乳を受け入れることが出来ない状態でした。幸い紋別市にあるよつ葉乳業工場は自家発電設備があるた

め一部の生乳は受け入れてもらうことが出来ましたが、二日間で61トンの生乳を町内では廃棄しました。商店などにおいても停電により冷凍冷蔵設備が機能しないことからかなりの廃棄食品が出ましたし、物流が滞ったことから商品の仕入れが出来なくなりました。このことは高齢者施設、病院、学校給食、旅館などにも影響することですが、幸いにもストックしてあった食品などを活用しながら凌ぐことが出来ました。水産加工などの冷凍庫は大型のため1日ぐらいの停電では大丈夫なようです。一般家庭においてはオール電化住宅をはじめ、私たちの日常生活において「電気」のない生活は考えられないことは言うまでもありませんが、テレビやスマホなどが使えないことで情報が得られないことと、「全道総てが停電」(ブラックアウト)という恐ろしい言葉の響きは私たちに大きな不安感をもたらしたと思います。幸い水道の断水はありませんでしたが、「興部町は午後〇〇時から断水になる!」とSNSなどでデマが発信されたことにより水を買って求める人も多かったようです。過去に断水したこともありますので誤解している人も多いようですが、本町の水道は停電では断水しない仕組みになっていますのでご安心ください。ただ、一部農村部でポンプアップしなければならない箇所がありますので、ここはタンク車で水を配水池に運んで対応していますが、ほとんどのご家庭では停電だけで断水することはありません。しかし、今回の停電により携帯電話の充電対策と町内の要所に情報発信機能(テレビ・ラジオ)の設置が必要と思いました。また、「北興にあるバイオガスプラントの電気は使えないのか?」という声も多く聞かれましたが、この施設は全量売電することで39円という高い価格で売電できる(FIT制度)ため自家消費もできない制度になっていますが、今後制度の見直しを国にも求めて生きたいと考えています。今回の地震災害で41名もの犠牲者が出てしまいましたし、広域で被害が発生しました。このことをどう自らのこととして住み暮らす自分たちの町の備えに生かしていけるかが私たちに課せられた宿題であると考え取り組んでまいります。

北海道命名150年、興部町130年、この節目の年に私たちは自然界から地震という恐ろしい贈り物をいただいたと思います。これまでの歴史は正直に言って自然界からの収奪の歴史でした。高橋知事は「観光客が減って困るから国にも安心だと呼びかけてほしい」と二階幹事長に要請をしていました。しかし、今なすべきことはこの広い北海道で住民生活や産業活動に支障のない電力供給やバックアップ対策であり、一日も早い被災地域の復興であり、脆弱な道内の物流の機能強化が何よりも優先されることだと私は考えます。そして、私たちはこの広い大地に生かされていることを改めて痛感させられたこの度の災害でした。さて、いよいよ秋本番です。食欲の秋、行楽の秋と良い季節になりますがこれも自然からの贈り物なのです。大切に頂戴しましょう!では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など(使い古しのもので構いません)に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 82・2131です。

